



令和8年4月30日発行

法人理念

人が人として人とともに豊かに生きる

基本方針

1. わたくし達は人との出会いを大切にします
2. わたくし達は思いやりと謙虚な気持ちを大切にします
3. わたくし達は個人を尊重し心優しい援助に努めます
4. わたくし達は社会福祉に貢献できるよう資質の向上に努めます
5. わたくし達は地域との信頼を深め開かれた施設運営に努めます



社会福祉法人 甲山福祉センター 西宮すなご医療福祉センター

〒663-8131 兵庫県西宮市武庫川町2番9号 TEL:0798(47)4477 FAX:0798(43)1022

HP: <https://www.sunago.or.jp> E-mail: [mail@sunago.or.jp](mailto:mail@sunago.or.jp)



## 西病棟

見市 ゆかり

### 「春のお茶会」

3月9日(月)に、西病棟1グループでお茶会を開催しました。

午前中に参加者全員でお抹茶の点て方などの映像を見て、実際にお茶の道具を見たり触ったりして期待を膨らませていただきました。その後、お出かけが好きな2名の利用者に、近所の和菓子屋に上生菓子を買っていただきました。

午後は、先にあま〜い上生菓子を食べ、その後に茶筌を持って抹茶を点て、香りや味を楽しんでいただきました。楊枝で刺して上手に口に運んで食べる方。普段はミキサー食だけど、少しずつ口の中で溶かしながら食べられる方。足をトントンと上下に動かし終始笑顔で参加されている方。お茶の先生のような風格で茶筌をふんわり握って職員と一緒にシャカシャカ回し、笑顔で参加されている方。それぞれにマッチしたお茶碗を選び、抹茶の香りを楽しんでおられる方など、一人ひとりさまざまに味や香り、雰囲気を楽しみ、次回のお茶会を期待されて閉会となりました。

# 令和8年度事業計画

西宮すなご医療福祉センター

## 目指す姿

### 将来にわたり持続可能な運営を目指す

#### プラン1 その人らしく生きることを支援する

(1) 障害のある人が、安心して暮らせるよう、利用者本人中心の医療・障害福祉サービスを提供する、地域の基幹施設としての役割を果たすことを目指します。

- ①利用者の人権を尊重し、本人らしく安全、安心な生活を送れるよう、個別支援計画を作成し、個々の利用者に相応しい、医療、介護、療育を提供します。
- ②高齢化・重症化する利用者とその家族との関わりを深めるための、「想いをつなぐノート」を活用したACP(アドバンス・ケア・プラン)を作成します。
- ③(新)療育活動においては、利用者に沿った活動と行事を提供します。
  - ・癒しの活動 音楽の活動 ICTを活用した活動
- ④入所、在宅、相談、医療の各部門が連携して、生涯にわたる切れ目のない支援を提供できる体制を整えます。
- ⑤障害医療を専門とする医療機関として、地域医療機関と連携し、医療サービスを提供します。

#### プラン2 仕事を通じて人を育てる

(1) 医療・介護・療育のスキルの向上に努め、より質の高いサービスを目指します。

- ①リーダーとなる職員を育て、個々の職員の育成課題を明確にした研修を計画・立案・実施します。
  - (新)・ポートフォリオを活用して、得意分野や課題に応じた研修のコーディネートを行う。
  - ・キャリアラダーの導入を進め、キャリアラダーとリンクする研修計画を考案する。

- ②認定看護師を中心に看護技術の向上を図り、より良い看護を提供します。
- ③強度行動障害支援者養成研修などの研修受講を奨励します。
- ④人権研修を行い、倫理意識の高い職員を育て、虐待防止・身体拘束防止活動を進めます。
- ⑤新人職員や未経験の職員が確実な支援を行えるよう、しっかりとしたサポート体制を作ります。

#### プラン3 利用者、職員の安全・安心を確保する

(1) 医療安全（感染を含む）対策

- ①誤薬など発生頻度の高い事故に対する具体的な再発防止に取り組みます。
- ②インシデント・アクシデントレポートの原因分析を行い、PDCAを活用した対策を実行します。
- ③標準予防策の重要性を周知徹底し、感染予防に努めます。
- ④抗菌薬の適正使用を含め薬剤耐性菌予防策を作成し実行します。
- ⑤医療メディエーターを配置し、事故やトラブル、クレームが発生した際、当事者同士の対話を促進し、関係の改善・維持を図ります。

(2) 虐待防止～ゼロを目指す

- ①不適切な対応、虐待などの早期発見、迅速かつ適切な対応を行います。
  - (新) パーソナリティに課題のある職員の業務遂行能力や安全性を評価する最低業務要件チェックリストの検討を進めます。
- ②虐待防止委員会やサービス向上委員会での報告・検証と職員全体への情報共有を行います。
- ③利用者の尊厳・人格を尊重できる研修を行います。
- ④職員が職場で孤立したり、ストレスを抱えたりすることを防ぎ、支えあえる相談しやすい職場づくりを進めます。
- ⑤(拡) 育児休業中の職員を対象に年2回、ママパパ会を開催します。

(3) 職員の定着と育成を目的としたやりがいのある働きやすい職場環境を整えます。

- ① 新人職員が定着するようサポート体制をつくり  
ます。  
(拡)・主任会で、新人職員の状況を定期的に把握する。  
・病棟ごとの新人教育マニュアルを全病棟共通のマニュアルとする。
- ② 業務改善とサービス向上を目的に業務マニュアルの整備を行います。
- ③ 一人ひとりが自ら考えて根拠に基づいた実践ができるための研修と人財育成を行います。
- ④ 自己のキャリアを考え、職員の能力向上やスペシャリストの育成を継続し、勤労意欲の向上を図るために、(新)看護課ではラダーにリンクした研修、生活支援課では等級別指導計画の作成を進めます。
- ⑤ 職場のハラスメントやカスタマーハラスメントなどへの対策を行い、安心して働くことのできる職場づくりを進めます。
- ⑥ 外国人労働者の採用に向けた検討を進めます。

(4) 防災・危機管理の推進

- ① BCPの周知とBCMの作成を進め、防災や感染症マニュアルに沿った危機管理の徹底を図ります。  
(新)・日本福祉大学連携社会福祉法人災害支援部会主催の研修を当センターで行い、BCPの見直しを行います。
- ② サイバーセキュリティ対策を強化します。
- ③ (拡) 災害時等の食事提供について、給食業務委託会社LEOCと備蓄品の計画をします。

**プラン4** 将来にわたり持続可能なサービスの提供の基礎をつくる

(1) 内部統制の強化とコンプライアンス遵守を実行し、利用者、職員、関係機関からの信頼を高め、安定した施設運営を目指します。

- ① 障害者施設等入院基本料の安定的確保  
障害者施設等入院基本料10対1堅持し、入所支援を安定的に運営します。  
入所173床、看護師基準人員52名以上の確保・維持

- ② (新) 人材確保については、SNSを積極的に活用し広報活動を行う。
- ③ サービス内容を適宜見直し、利用契約書と重要事項説明書の記載事項を改めます。
- ④ 個人負担利用料を適正に見直します。

(2) 築後20年を経過して、施設設備の劣化が著しいため、あらたに設備管理責任者を配置し、現状を評価し施設整備を実施します。

- ① (新) 長期修繕計画の再計画と改修工事を実施します。
- ② キュービクル(高圧変電装置)の部品交換と更新を行います。
- ③ 空調・換気システムのEHP化に向けて、実施設計を行います。
- ④ 天井走行リフトの整備やIT環境の整備など労働環境の改善に向けて取り組みます。
- ⑤ 利用者の特性に配慮した病棟環境の整備を計画します。

**目指す姿**

**存在感のある法人を目指す**

**プラン5** 地域の人々が利用したいと願うサービスを提供する

(1) 在宅利用者に対して、ライフステージに沿った切れ目のないサービスを提供できるように事業を総合的に推進します。

- ① 短期入所事業 (併設6床、空床利用4床=10床)  
目標利用率 80% (8名)
- ② 生活介護事業 (つばさ 15名)  
目標利用率 86% (13名)
- ③ 重症児等放課後等デイサービス事業 (さくらんぼ:定員5名)  
目標利用率 60% (3名)
- ④ 発達障害児等児童発達支援・放課後等デイサービス事業 (ねっこ:定員10名)  
目標利用率 80% (8名)  
「動く医療的ケア児」を引き続き受け入れます。
- ⑤ リハビリ課  
1日目標単位数13.7単位  
入所利用者の高齢化に伴う機能低下について対応する。地域向け研修会を行う。

- ⑥訪問看護事業(つくし)  
目標件数月平均490件
- ⑦居宅訪問介護事業(つくし)  
目標件数月平均380件
- ⑧医療的ケア児等支援事業の拡充  
西宮市立学校園における医療的ケア支援業務  
利用予定5校  
西宮支援学校における医療的ケア支援業務
- ⑨医療的ケア児等コーディネーター事業  
西宮市から医療的ケア児等コーディネーター事業を受託し、支援者の養成や相談支援の仕組み、地域のネットワークづくりに取り組みます。
- ⑩相談支援事業(あゆむ)
  - ・特定相談支援事業  
サービス等利用計画105件、継続サービス等利用計画289件、合計394件
  - ・障害児相談支援事業  
障害児支援利用計画27件、継続障害児支援利用計画61件、合計88件
  - ・入所利用者の計画相談  
利用者80名、サービス等利用計画62件、継続サービス等利用計画98件

(2) 地域医療への貢献

- ①近隣医療機関との連携を進め、障害専門医療機関として在宅診療に協力します。

プラン6

SDGs達成に向けた取組など、  
これからの社会に貢献する法人を目指す

- (1) 施設で暮らす障害者が地域社会の一員であること  
の理解を深めるため、交流拠点となるよう、「開  
かれた施設」を目指します。

- ①法人内事業所(保育、高齢)との交流を図ります。
- ②地域住民が参加できる療育祭やバザーなどの企  
画を進めます。
- ③地域住民が福祉に関する学びや相談ができる企  
画を進めます。



プラン7 地域の福祉人材を育てる

- (1) 地域向け研修会を開催します。
- (2) ボランティアの受け入れを進めます。
- (3) トライやるウィークなど福祉体験の教育活動  
に協力します。
- (4) 専門教育機関からの実習生を受け入れます。

プラン8 人々に信頼される法人を目指す

- (1) 医療・障害福祉サービスの報酬・基準管理の  
徹底
  - ①施設運営管理を担う事務部門に、あらたに役職  
者を配置し、マネジメント力を強化します。
  - ②内部統制を強化し、保険診療及び障害福祉サー  
ビスにおける施設基準と報酬管理を担う責任者  
を明確にし、各種関係法令を遵守します。
- (2) 適切な財務管理の推進
  - ①経営判断に資する財務情報の共有を図ります。
  - ②各種補助金等を活用します。
  - ③適正な入札、競争見積等の実施と随時契約内容  
の見直しを行い、経営改善を図ります。

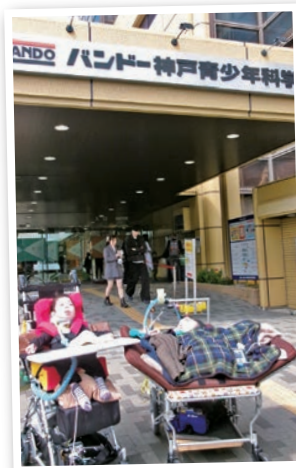


## 2階病棟

首藤 祥代

3月26日、バンドー神戸青少年科学館へ出掛けました。まず、プラネタリウムでは真っ暗になる空間に驚きながらも、迫力のある映像で笑顔になり、星座について楽しく学ぶことができました。館内では、消防車の前で消防士の服や帽子を身に付け、記念撮影も行いました。リニューアルされた「生命・産業」ゾーンでは巨大な人体模型があり、心臓・肺・脳などがパズルのように分解されており、それぞれの大きさや重さなどを感じる体験ができ、不思議そうな表情を見せる場面もありました。

天候にも恵まれ、お出かけ日和の中、バスの振動や車窓からの景色を楽しむなど、充実した時間を過ごすことができました。



## 3階病棟

上村 真理

3月9日に、3階病棟☆相撲グループは院外活動でなんばパークスの8階にある相撲ショップ「日楽座」に行ってきました。

なんばパークスに近づくと、相撲ののぼりを発見！バスの中では利用者や保護者の方、職員から「わあ」と歓声が上がりました。その後にもなんと本物のお相撲さんを見つけ、たこ焼き屋さんにも並ぶまでじっと視線を送っていました。

昼食はポムの樹でオムライスを注文し、ふわふわのオムライスを美味しくいただきました。食後は念願の相撲ショップに向かい、力士のぬいぐるみやTシャツ、提灯などを手に取って見たり、写真を撮ったり、相撲グッズに囲まれ楽しむことができました。屋外ガーデンでは多肉植物を眺め、気持ち良い風に当たりながら散歩することができました。

次回もゆっくりと楽しめる場所に行きたいと思います。



## 4階病棟

吉野 秀

3月18日に、院外活動で京都水族館に行ってきました。

天候には恵まれませんでした。到着すると都会の真ん中に緑の空間が広がっており、館内に入るとすぐにオオサンショウウオが展示されていました。最初はその距離感と迫力に利用者の方々はとまどっている様子でしたが、「京の海」と名付けられた大水槽では真鯛やサメ、エイなどが泳いでおり、見学中に行われていたエイの餌やりでは餌を食べるエイのかわいらしい姿に愛着がわいてしまうほどで、大水槽を優雅に泳ぐ魚の姿に利用者の表情も和らんでいるように見えました。そしてイルカのスタジアムでは、京の街並みを背にイルカとトレーナーが息の合った臨場感あふれるさまざまなパフォーマンスを見せてくれ、大いに盛り上がり自然と声が出てしまいました。また今回の院外活動で何よりも一番印象に残ったのは、行きの車内から期待を膨らませた利用者が見せてくれた笑顔です。外出機会が限られているなかですが、今後も利用者の期待に応えられるようなものを提供していきたいと強く思いました。



## リハビリテーション室

井上 ゆかり

「リハビリカンファレンスをやっています」


平素はリハビリテーション実施にご協力をいただき、ありがとうございます。

西宮すなご医療福祉センターでは、利用者の生活がより良いものになるように『リハビリカンファレンス』を開催しています。『リハビリ』といいながら、参加者は医師・看護師・生活支援員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・栄養士・相談支援員・心理師など、各分野の専門職員が集まります。

利用者自身やご家族の希望に沿った生活を目指すため、各専門分野の職員が集まり、設定した目標に向かっての課題を抽出・共通認識し、その課題に対してそれぞれが行う専門支援について確認しています。皆で話し合い、いろいろなアイデアを出して多職種で連携することで、利用者の生活が充実していくことを今後も目指したいと思います。



児童発達支援室

ねっこ 

高木 みさと

放課後等デイサービスねっこでは、院外活動として3月の3日間に小学1年生～4年生のメンバーでお買い物に行き、お楽しみ会を行いました。1日目はあいにく雨のため院内の自動販売機で飲み物を買いましたが、2日目と3日目は晴天に恵まれ予定通りにスーパートライアルへ飲み物を買に行き、自動販売機でもスーパーでも自分で選択した物を自分のお金で買うことができました。お買い物の後はお菓子と一緒に自分で買ったジュースを飲んで、ゲームでも盛り上がり、いつも以上に笑顔が溢れた時間を過ごせました。

普段なら、室内でお店やさんごっこやままごと遊びをしていますが、今回は実際に買い物をすることで、いつもと違った特別な経験ができたと同時に、普段は見られない子どもたちの成長した姿を感じることができました。これからも、普段の活動はもちろん、時々特別な活動を通して、こどもたちの社会性を育む経験ができるとうれしいと思います。



訪問看護ステーション

つくし 

藤本 幸子

訪問看護ステーション・ヘルパーステーションつくしの紹介です。

私たちは、重症心身障がい児者とそのご家族が安心してご自宅で過ごせるよう、看護師や理学療法士・ヘルパーが雨の日も猛暑の日も極寒の日にも負けずに、自転車・車・バイク・徒歩で訪問に出ています。日常生活の援助では、入浴介助や散歩、発達に合わせた余暇の提供があります。健康管理や医療処置、日常生活の援助を丁寧に行うとともに、利用者一人ひとりの成長や個性を大切にしながら、ご家族のお気持ちにも寄り添いながらほっと安心できる時間が増えるように心がけています。

これからの季節は、猛暑のなかでの入浴介助や社会参加・余暇活動となるため、利用者の安全確保に留意し、暑さ対策を十分に行い、安全に支援ができるようにしていこうと思います。



## 院内実践研究発表会



令和7年度の院内実践研究発表会は、各部署の役職者が実際に研究を進めながら指導力のスキルアップを目指して取り組みました。発表演題数は実践報告なども含めて13題となり、そのなかから最優秀賞1題と優秀賞2題が選ばれました。



最優秀賞

### 摂食・嚥下機能分類システムの活用

#### ～当センターの重症児(者)に対するアルゴリズムの改訂と検討～

言語聴覚士は摂食に関するさまざまな声に寄り添いながら、客観的な評価を行う責務があります。しかし、言語聴覚士の単発的な評価のみでは十分とは言えず、病棟職員や保護者との連携が不可欠だと考えています。今回、摂食・嚥下機能分類システム(EDACS)を使用して、研究に同意を得られた利用者を対象に摂食・嚥下について評価をし、その後、当センター向けにEDACSのアルゴリズムの改訂を実施しました。その結果、やはり言語聴覚士の単発的な評価で摂食・嚥下機能を適切に把握することは難しく、より利用者にあった摂食・嚥下機能の評価をするためには、病棟職員や保護者との連携が不可欠であることが明確になりました。今後、利用者に関わる全ての人が誰でも摂食・嚥下機能の分類が行えるように、すなご版EDACSを活用していきたいと考えています。



リハビリテーション室  
堀岡 愛音

**優秀賞** 強度行動障害のある利用者の生活の見直し その後の取り組みについて

強度行動障害を持つH氏を対象に、安定した生活リズムの再構築を目指した取り組みを行いました。令和4年度のコロナ渦による環境変化を機に、H氏に過度な要求などの不安定な行動が見られるようになりました。前回の研究で「特定のベテラン職員に依存せず、病棟全体で一貫した支援を行うこと」が課題として浮き彫りになったため、令和6年4月から1年半にわたり取り組みを行いました。具体的には、職員向けの勉強会を開催して利用者心理への理解を深めるとともに、支援手順書の共通化・掲示を行いました。その結果、職員の経験年数に関わらず統一した対応が可能となり、H氏が混乱する場面や他傷行為も減少し、生活の安定化に繋がったと考えます。今後は活動場所の明確化(構造化)を進め、さらなる支援の質の向上を目指して行きたいと考えています。



4階病棟  
須田 隆

**優秀賞** フィッシュ哲学に基づく実践が職場の心理的安全性に与える影響の検証

2025年を迎え、日本は本格的な少子高齢化社会に突入しました。厚生労働省も「人手不足が広範囲にわたっており『長期かつ粘着的』である」と述べており、人手不足という言葉がさまざまな場面で聞くようになりました。そのようななか、利用者の支援に日々励む職員の定着率を向上できるような何かできることはないかと考え、フィッシュ哲学に基づく実践で職場の心理的安全性は向上できるのか検証研究を行いました。結果、今回の取り組みだけでは心理的安全性を向上させることに限界があり、さらに工夫が必要であることが分かりました。利用者の安全と安心を守る職員もまた、安心して働ける環境が大切であり、それが利用者の日々の安心安全な暮らしを守ることに繋がると考えます。今後も継続的な取り組みを、職員と共に考えていければと思っています。



研修室  
尾関 美絵

**2025年度  
院内実践研究発表会 発表演題**



◆ 障害児者の医療型施設入所希望に関する傾向と背景要因	相談支援課	白木 桂世
◆ 接遇向上に向けた職員の気づきを促す取り組み ～ロールプレイングを通して職員の意識変容を検証する～	3階病棟	山根 剛
◆ 病棟内の多忙感を解明する	2階病棟	宮本 功治
◆ 重症心身障害児者施設における口腔保湿ジェルの使用感と ケア負担軽減効果の検討	歯科室	松本 美紀
◆ 「学校における医療的ケア児への連携を図るには」 ～学校看護師と養護教諭のアンケート調査から～	在宅支援課つくし	中本 昌代
◆ 統一した支援からK氏の日常動作(ADL)の向上を目指して	西病棟	向嶋 愛
◆ 重症心身障害児通所支援室における音環境の調査	通所支援室つばさ	野々上 曜靖
◆ 利用者との活動経験が職員の活動に対する意識に与える 影響についての取り組み	4階病棟	吉見 さやか
◆ 利用者を取り巻く社会資源に着目した フェイスシートの活用による職員の意識変化	2階病棟	野村 智史
◆ 日勤帯リーダーの育成に向けた取り組みについて	3階病棟	吉崎 哲也

## 追悼慰霊式と感謝状贈呈を終えて

総務課 間 太生

3月13日(金)、肌寒さの中にも春の光が差し込む穏やかな日に、西宮すなご医療福祉センター中庭において追悼慰霊式が執り行われました。これまでの利用者の皆様に対し、敬意と感謝の意を表する場として、保護者会より会長・副会長にご参列いただきました。当センターからは理事長をはじめ、院長、事務長らが出席いたしました。

式典後には、ご参列の皆様と利用者・職員で、2025年度の思い出写真をまとめたスライドショーの鑑賞会を開催しました。写真が映し出されるたびに、「あ、〇〇さんだ」「あのときですね」といった声があがり、1年を振り返る心温まるひとときとなりました。

また、鑑賞会終了後には、保護者会からのご寄付に対する感謝状の贈呈を行いました。日頃より賜っております温かいご支援により、当センターの運営が支えられていることを改めて実感いたしました。ここに深く感謝申し上げます。

年度末を迎え、慌ただしい日々が過ぎ、息つく間もなく2026年度が始まりました。病棟をはじめとした直接部門・間接部門が一丸となり、これからもご利用者の皆様に寄り添った支援に努めてまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 令和8年度 新任職員自己紹介コメント

### 事務員 井上 沙織 <R8.4.1>

総務課の井上 沙織です。  
パート職員と嘱託職員として勤務し、5年3か月が過ぎました。まだまだ分からないこともたくさんありますが、今まで働いてきたことを礎に、当センターの一員として貢献できるように日々精進していければと思っています。  
よろしくお願いいたします。

### 看護師 山下 芽依 <R8.4.1>

重症心身障害児者施設での勤務は初めてなので、仕事を覚えるまでの不安や新しい環境への緊張もありますが、先輩職員の方々や利用者の皆様とたくさんコミュニケーションを取って、利用者一人一人に寄り添える看護師になれるように一生懸命頑張ります。

### 看護師 久保田 歩夢 <R8.4.1>

4月から入職しました久保田 歩夢です。  
まだまだ未熟な部分もありますが、利用者の日々の生活を支えられるよう笑顔で頑張ります。よろしくお願い致します。



### 看護師 上田 瑞 <R8.4.1>

新しく入職いたしました上田 瑞です。  
日々の関わりを大切に、皆様と一緒に楽しい時間を積み重ねていきたいと思っています。  
至らぬ点もあるかと思いますが、明るく元気に頑張ります。見かけたらぜひお声がけください！

### 看護師 関根 維志 <R8.4.1>

利用者一人ひとりに合わせてケアが行えるように、日々利用者の反応やニーズにアンテナを張っていきたいです。また、看護の技術をさらに高めていけるように勉強会に積極的に参加していきたいです。



### 看護師 吉田 颯宇 <R8.4.1>

4月より入職しました吉田 颯宇です。  
まだ不慣れなことも多いですが、一日でも早く仕事を覚え、利用者やご家族に安心していただけるように頑張ります。  
笑顔を大切にしながら努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

**看護師 阿部光** <R8.4.1>

これまで急性期病院のユニットで看護に携わって参りました。アルバイトでの重症心身障害児の関わりで分野に興味を抱き入職しました。利用者、ご家族、職員が「任せて良かった。」と“安心できる看護”を日々ケアとして提供していきたいです。

**事務員 松本朋希子** <R8.4.1>

「人が人として人とともに豊かに生きる」の理念のもと、私にできること一つ一つ頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

**看護師 松本歩** <R7.5.1>

昨年5月に入職し、もうすぐ1年が経ちますが、急性期から重症心身障害者の看護は初めてでした。少しずつ慣れて今は楽しく働くことができています。これからいろいろな学びながら、利用者が安心して生活できるように看護していきたいです。

**看護師 橋本由利子** <R7.5.12>

2階病棟に勤務をして早1年が経ちます。2階病棟での利用者は意思疎通が困難ではありますが、ケア時に見せてくれる笑顔に癒されています。

**薬剤師 清原正隆** <R7.5.20>

2025年5月より入職しており、約1年が経ちました。少しずつ慣れてきて、利用者の方々の顔も分かるようになってきました。利用者のために、是々非々の気持ちで一生涯懸命にがんばっていきたいと思えます。

**薬剤師 渡邊恵美子** <R7.6.1>

思春期の娘たちがいる母親です。家では娘たちはあまり話してくれないので、職場ではたくさん話したいと思えます。

皆さん、遠慮せずに気軽に話しかけてくださいね。よろしくお願いします。

**看護師 木本結稀** <R7.6.1>

昨年の6月から4階病棟でお世話になっております木本です。笑顔で楽しく過ごしてもらえよう頑張ります。

**看護師 高山直子** <R7.7.1>

昨年の7月に入職し、現在西病棟で勤務しています。前職は小児科で重症心身障害児の看護をしていました。西病棟では成人から高齢の利用者がほとんどで、同じ重症心身障害の分野でも新たな気持ちで日々楽しく働いています。

**生活支援員 岡田萌々** <R7.7.1>

3階病棟で生活支援員として配属になりました、介護福祉士の岡田萌々です。以前は高齢者施設で働いており、障害者の方とは接する機会がありませんでした。新たな挑戦ですが、利用者の方々と関係性を築いていくことが今は楽しいです！

**営繕員 坂根世起** <R7.10.6>

昨年度から入職いたしました設備室の坂根と申します。当センター内の設備を日々点検、工事させていただいております。入ったばかりなので分からないことがたくさんありますが、業務を通してお声掛けいただけたら幸いです。また、施設内の破損や異音を感じたりしたらぜひお声掛けください。

気持ちの良い施設づくりを目指しますので、よろしくお願いします。

**看護師 郷木萌花** <R7.11.19>

昨年11月に入職し、西病棟で働いています。まだ慣れないこともありますが、利用者に安心して過ごしていただけるよう、笑顔と丁寧な対応を大切にしながら頑張っています。よろしくお願いします。

**看護師 足立隆一** <R8.3.1>

2026年3月より2階病棟で勤めさせていただいている足立 隆一と申します。重症心身障害児者の方たちの看護は初めての経験となります。意思表示を上手に表せない方たちの気持ちをしっかりと汲み取るように、心を通わせる看護に努めていきます。

**看護師 廣瀬愛子** <R8.3.1>

医療的ケアに加え、利用者一人ひとりを尊重したコミュニケーションを大切にしたいです。日々の穏やかな生活を支え、心に寄り添う看護を実践し、これまでの経験を活かしてチームの一員として貢献します。

〳善意、令和8年2月～4月

寄付金 (順不同 敬称略)

2月 岡本 好司

3月 西宮すなご医療福祉センター 保護者会



## 利用者様の作品紹介

2階病棟 福持 祐子

2階病棟には手や指を動かせる方が多いので、優しい動きでも音が鳴るような楽器を作りました。まずはガチャガチャのカプセルにビーズを入れます。ビーズも大きさや量で、音に違いがあり、どれくらい入れるかななどを一緒に考えながら決め、次につなぎ目をフェルトでカバーすることで優しい手触りになりました。完成後は指を上手に使って、触って鳴らして遊ぶ様子が見られました。



## 編集後記

3月は寒い日が多かったですが、急に暖かくなり桜も一気に咲きましたね。

今年度もみなさまに西宮すなご医療福祉センターの様子や活動などをお知らせしていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。



安本 智恵子

## 重症児者通所支援室

つばさ

市川 賢司

生活介護つばさでは、1月29日に『二十歳のつどい』を開催しました。今年は3名が二十歳を迎えられ、ご家族や母校の先生にもご参加いただき、お祝いを行いました。

前半は20年前の出来事の紹介から始まり、新成人の紹介、院長の挨拶、通所の保護者会会長および西宮特別支援学校、あまよう特別支援学校、芦屋特別支援学校より祝辞をいただきました。次にそれぞれの担当職員からお祝いのメッセージが述べられ、賞状と記念品の贈呈を行いました。前半の最後にはそれぞれのご家族からお言葉をいただき、これまで家族で歩んださまざまな思いと喜びがこみ上げてくる感動的な場面となりました。

後半は、Piano Duoラ・メールさんによるコンサート(ピアノ連弾)を鑑賞しました。ソロとは違う、オーケストラのような華やかで厚みのあるハーモニーを楽しむことができました。式を終えると出席者みんなで写真撮影を行い、久しぶりに会う母校の先生方とも昔話に花を咲かせていました。

ささやかですが、みなさんと一緒にお祝いができて良かったです！ご協力いただいたみなさんもありがとうございました。

